

はじめに

県教育委員会では、改善傾向にあるものの、依然として全国平均を下回る状況にある児童生徒の学力や体力、いじめや不登校など生徒指導上の諸問題の抜本的な解決に向けて、平成24年3月に「高知県教育振興基本計画 重点プラン」を策定し、「知」「徳」「体」の各分野で掲げた目標の達成に向けて、「力のある学校づくり」「心を耕す教育の総合的な推進」「縦横のつながりの強化」の3つの柱に基づく取組を進めてきました。

このたび、重点プラン実施期間（H24～27年度）の中間点をむかえるにあたり、県教育委員会では、これまで2年間の取組の総合的な検証を行い、成果・課題を整理するとともに、目標の達成に向けて今後2年間の施策の取りまとめを行いました。

これまでの取組により、小学校では、平成25年度の全国調査で学力、体力ともに向上しており、確実な成果が上がっています。

また、「自分には、よいところがある」「将来の夢や希望を持っている」「学校の決まりを守っている」という回答の割合が、小・中学校ともに年々増加するなど、自尊感情や将来を見通す力、規範意識といった心の土壌も着実に培われてきています。

これは、本県の教育関係者がベクトルを合わせて取り組んだ結果であり、教職員の方々をはじめ、保護者や地域の皆様、そして何より子どもたちの努力によるものであると思います。

しかしながら、中学校の学力や体力等は、依然として全国平均を下回る状況にありますし、生徒指導上の諸問題については、不登校出現率、暴力行為の発生件数はやや改善されたものの、中途退学率が全国ワースト1位となるなど、厳しい状況が続いています。

このため、今後は「学校改善プラン」の取組を拡充した「学校経営計画」の全小・中学校への導入や、管理職等へのマネジメント研修の充実などにより、学校等における組織的な経営力の一層の向上を図るとともに、若年教員や保育、教科教育の中核となる教員の育成、単元テストや学習シートなどの活用、園内研修・校内研修への支援等を通じて、個々の教職員の資質・指導力を高めることで、保育・教育の質の向上につなげていきたいと考えています。

また、子どもたちの自尊感情や規範意識、社会性を育む取組については、キャリア教育や道徳教育、読書活動など「心を耕す教育」をはじめ、開発的・予防的な生徒指導やスタンダードに基づく学級経営に関して、研究指定地域や指定校、リーダー教員を中心に効果的な取組が進んでおり、今後2年間でこれらの実践事例を広く普及し、県全体での推進を図ることとしています。

加えて、発達障害等のある子どもへの指導・支援のつながりや、学校支援地域本部事業等による地域ぐるみで子どもを育てる活動の推進、教育相談体制の充実など、校種間、関係者間の連携による取組をさらに強化することで、子どもたちを守り支えていきたいと思えます。

教育では、当たり前のことを当たり前に行い、日々の取組の質を上げていく「凡事徹底」、「凡事一流」が重要となります。学校、家庭、地域、行政が一体となって、子どもたちの「夢」や「志」を喚起するとともに、「知」「徳」「体」の各分野で、将来の基盤となる力をしっかりと育てていくことで、本県の子どもたち一人一人が、自ら学び、高い志を持って行動できる自立した人間に成長していくと確信しています。

重点プランの取組の総仕上げに向けて、皆様の幅広いご支援とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

平成26年4月